

9 家族に関する悩みごと、仕事と家族の葛藤

9-1 家族員に関する悩み

NFRJ03 では家族員に関する悩みを、「子どものこと」、「配偶者のこと」、「親・義理の親のこと」にわけてたずねている。以下の表に、それぞれについての性別および5歳幅の年齢層別（調査時年齢に基づく。以下同じ）の割合を示す。表中のNは、無回答および非該当を除いた数値である。また図には性別および年齢層別の平均値を示す。なお平均値は各質問項目の回答を、「何度もあった」=4点～「まったくなかった」=1点と数値化したうえで算出した。

表 9-1 は子どものことについて悩んだ頻度を性別および5歳幅の年齢層別にみている。男女の年齢計のパーセンテージについては、NFRJ98 の数値も示す。また図 9-1 には NFRJ03 の性別および年齢層別の平均値をプロットしている。

表 9-1 (ア) 子どものことで悩んだこと

		N	何度もあった	ときどきあった	ごくまれにあった	まったくなかった
男性	全体 (NFRJ98)	2677	12.0	24.8	28.5	34.7
	全体 (NFRJ03)	2311	8.8	23.0	27.2	41.0
	28-32 歳	108	4.6	24.1	30.6	40.7
	33-37 歳	166	6.6	24.1	29.5	39.8
	38-42 歳	216	6.9	25.0	25.9	42.1
	43-47 歳	237	9.3	24.5	32.5	33.8
	48-52 歳	263	9.9	27.4	33.8	28.9
	53-57 歳	329	8.8	26.7	25.5	38.9
	58-62 歳	313	12.1	20.4	24.0	43.5
	63-67 歳	293	9.2	22.2	22.2	46.4
	68-72 歳	261	7.3	17.2	26.8	48.7
73-77 歳	125	9.6	15.2	24.0	51.2	
女性	全体 (NFRJ98)	3093	20.9	27.5	24.2	27.4
	全体 (NFRJ03)	2816	16.0	28.1	25.7	30.3
	28-32 歳	194	22.7	35.1	29.9	12.4
	33-37 歳	284	23.6	32.4	29.9	14.1
	38-42 歳	334	23.1	38.6	24.9	13.5
	43-47 歳	295	20.0	37.6	22.7	19.7
	48-52 歳	337	16.6	28.5	28.8	26.1
	53-57 歳	360	11.9	23.1	30.3	34.7
	58-62 歳	354	10.7	27.4	20.1	41.8
	63-67 歳	267	10.9	17.2	28.1	43.8
	68-72 歳	231	10.4	15.6	21.6	52.4
73-77 歳	160	8.1	20.0	17.5	54.4	

性別 p<.001 男性・年齢層別 p<.01 女性・年齢層別 p<.001

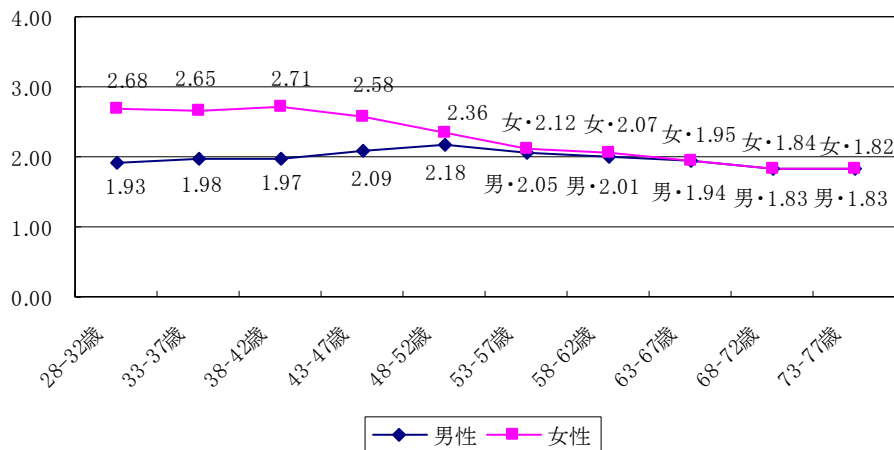


図 9-1 性別・年齢別の「子どものことで悩んだこと」の平均値

表 9-1 によると、NFRJ03 では男性の 4 割、女性の約 3 割が「まったくなかった」と回答している。NFRJ98 と比較すると、男性・女性ともに NFRJ03 の方がいくぶん、「まったくなかった」の割合が多く、「何度もあった」の割合が小さくなっている。

NFRJ03 では性別による差が有意である。男性よりも女性の方が子どものことで悩んだ頻度が高い。図 9-1 によると、こうした性別による差異は、20 歳台から 40 歳台の比較的若年層において顕著である。男性・女性とも年齢層による差異がみられる。男性は「43 - 47 歳」から「53 - 57 歳」の中高年層で子どものことについて悩んだ頻度が高く、女性は年齢が低いほど子どものことで悩んだ頻度が高い。こうした傾向は図 9-1 から確認することができる。

次の表 9-2 は、配偶者のことについて悩んだ頻度を示している。男女の年齢計のパーセンテージについては、NFRJ98 の数値も示している。NFRJ03 では、男性全体で 6 割が、女性全体でも 5 割近くが「まったくなかった」という回答をしている。表 9-1 の子どもについての悩みと比較すると、配偶者についての悩みの頻度はそれほど高くない。こうした傾向は、NFRJ98 をほぼ踏襲している。

NFRJ03 では性別による差が有意であり、男性よりも女性の方が悩んだ頻度が高い。年齢層別の差は男性・女性とも有意ではない。

表 9-3 および図 9-3 は親・義理の親のことで悩んだ頻度を示している。回答は特に男性では「まったくなかった」に偏る傾向がみられる。NFRJ98 と比較すると、NFRJ03 では男性・女性とも「まったくなかった」という回答が数ポイント多くなっている。

NFRJ03 では性別による差が有意である。男性よりも女性の方が親・義理の親のことで悩んだ頻度が高い。また男性・女性ともに年齢層による差異がみられる。男性・女性ともに「28 - 32 歳」層で悩みの頻度が低く、年齢層が上がるごとに悩みの頻度が高くなり、高齢になると再び悩みの頻度は低くなる傾向がみられる。

表 9-2 (イ) 配偶者のことで悩んだこと

		N	何度も あった	ときどき あった	ごくまれにあ った	まったく なかった
男性	全体(NFRJ98)	2758	5.3	12.1	24.4	58.3
	全体(NFRJ03)	2437	4.3	11.4	21.0	63.3
	28-32 歳	147	2.0	8.8	19.7	69.4
	33-37 歳	195	5.6	12.3	20.0	62.1
	38-42 歳	232	4.7	9.9	21.1	64.2
	43-47 歳	242	5.0	11.2	26.9	57.0
	48-52 歳	268	3.4	13.1	21.6	61.9
	53-57 歳	343	4.1	13.4	21.0	61.5
	58-62 歳	308	3.2	13.0	21.4	62.3
	63-67 歳	304	5.3	8.9	19.7	66.1
	68-72 歳	273	6.2	11.0	19.4	63.4
	73-77 歳	125	2.4	9.6	16.0	72.0
女性	全体(NFRJ98)	2839	11.8	20.3	25.8	42.1
	全体(NFRJ03)	2632	8.9	19.5	26.9	44.7
	28-32 歳	222	9.9	20.7	25.7	43.7
	33-37 歳	292	9.9	19.5	28.8	41.8
	38-42 歳	326	10.1	20.9	27.0	42.0
	43-47 歳	292	9.2	21.6	23.6	45.5
	48-52 歳	312	7.4	17.0	33.7	42.0
	53-57 歳	359	7.0	19.5	27.6	46.0
	58-62 歳	306	7.5	22.2	19.6	50.7
	63-67 歳	233	10.7	17.6	30.5	41.2
	68-72 歳	178	11.2	16.3	30.9	41.6
	73-77 歳	112	7.1	17.0	17.0	58.9

性別 p<.001 男性・年齢層別 n.s. 女性・年齢層別 n.s.

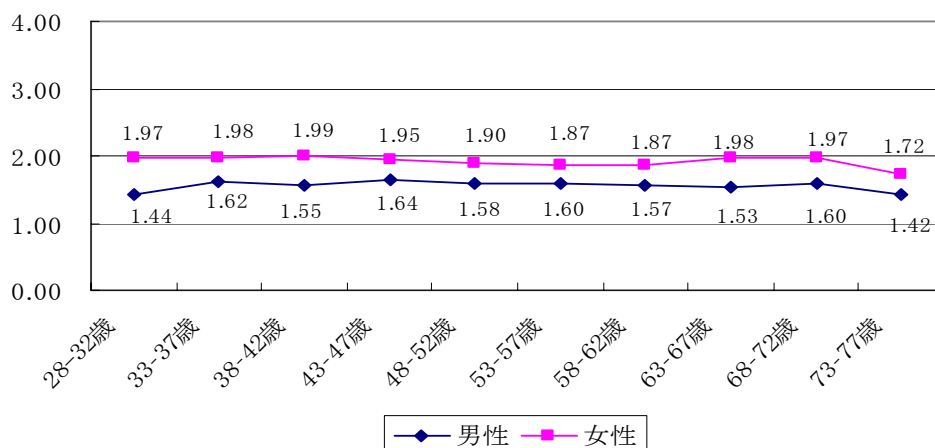


図 9-2 性別・年齢別の「配偶者のことで悩んだこと」の平均値

表 9-3 (ウ) 親・義理の親のことで悩んだこと

		N	何度もあった	ときどきあった	ごくまれにあった	まったくなかった
男性	全体(NFRJ98)	2357	7.3	16.0	25.7	51.0
	全体(NFRJ03)	2111	5.8	14.5	22.3	57.4
	28-32歳	266	3.8	9.0	14.3	72.9
	33-37歳	265	4.2	12.1	20.4	63.4
	38-42歳	280	3.9	14.6	21.8	59.6
	43-47歳	269	5.2	14.5	21.2	59.1
	48-52歳	284	6.0	17.3	25.4	51.4
	53-57歳	312	9.0	15.7	24.4	51.0
	58-62歳	203	7.9	18.7	26.6	46.8
	63-67歳	148	7.4	17.6	25.0	50.0
	68-72歳	65	4.6	13.8	23.1	58.5
	73-77歳	19	5.3	0.0	36.8	57.9
	女性	全体(NFRJ98)	2385	15.6	21.6	25.0
全体(NFRJ03)		2297	11.6	20.2	24.7	43.4
28-32歳		325	8.0	15.1	22.5	54.5
33-37歳		345	10.4	18.6	23.5	47.5
38-42歳		377	10.3	20.2	23.9	45.6
43-47歳		321	13.1	20.9	26.5	39.6
48-52歳		320	13.1	20.9	24.1	41.9
53-57歳		291	12.4	23.4	28.9	35.4
58-62歳		194	12.4	24.7	25.8	37.1
63-67歳		82	15.9	19.5	26.8	37.8
68-72歳		33	21.2	27.3	12.1	39.4
73-77歳		9	11.1	11.1	22.2	55.6

性別 p<.001 男性・年齢層別 p<.001 女性・年齢層別 p<.001

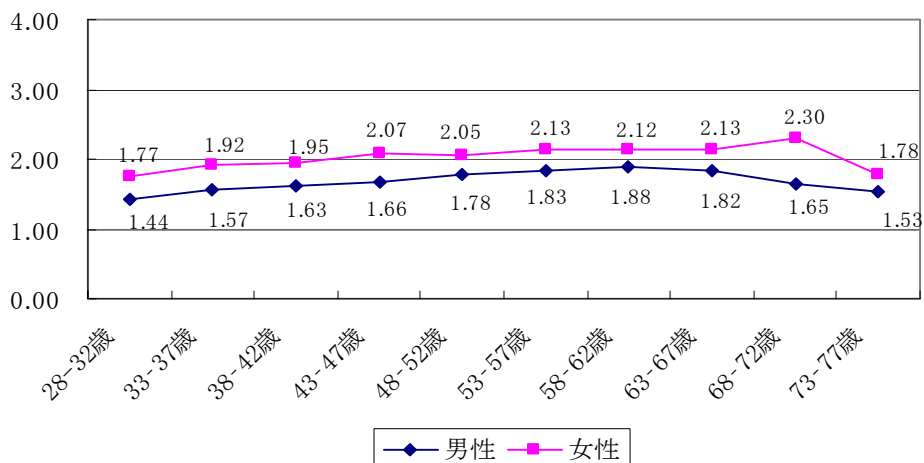


図 9-3 性別・年齢別の「親・義理の親のことで悩んだこと」の平均値

9-2 家族生活に関する悩み

家族生活に関する悩みは、「『自分が家族に理解されていない』と感じたこと」、「家事・育児・介護などでの負担が大きすぎると感じたこと」、「家計の先行きについて不安を感じたこと」の3項目で測定されている。表9-4～6は、それぞれについての性別および5歳幅の年齢層別の割合を示している。表中のNは、無回答および非該当を除いた数値である。また図9-4～6には性別および年齢層別の平均値をプロットしている。

表9-4の「自分が家族に理解されていない」と感じた頻度についてみると、全体として回答は「まったくなかった」に偏る傾向がみられる。各年齢層を通して「まったくなかった」という回答が、男性では6～7割、女性では5～6割を占めている。こうした傾向はNFRJ98をほぼ踏襲している。

NFRJ03では性別による差がみられ、男性よりも女性の方が「自分が家族に理解されていない」と感じた頻度が高い。図9-4によると、性別による差は30～40歳台の比較的若年層において顕著である。男性・女性ともに年齢層による差が有意である。男性は「48 - 52歳」および「53 - 57歳」層の中高年齢層に「家族に理解されていない」と感じた頻度が高い。女性では「28 - 32歳」層から「48 - 52歳」層までは「家族に理解されていない」と感じた頻度が比較的高く、以後年齢層が上がるごとに「家族に理解されていない」と感じた頻度が低くなる傾向がみられる。

表9-4 (エ)「自分が家族に理解されていない」と感じたこと

		N	何度も あった	ときどき あった	ごくまれにあ った	まったく なかった
男性	全体(NFRJ98)	3218	3.8	9.5	24.5	62.2
	全体(NFRJ03)	2908	3.3	9.9	20.3	66.5
	28-32歳	277	4.0	6.5	14.1	75.5
	33-37歳	267	4.1	11.6	14.2	70.0
	38-42歳	284	3.5	7.0	18.7	70.8
	43-47歳	275	2.9	6.2	22.2	68.7
	48-52歳	311	4.5	12.2	24.4	58.8
	53-57歳	382	3.1	11.5	25.1	60.2
	58-62歳	336	2.1	14.0	20.5	63.4
	63-67歳	332	4.2	9.0	18.4	68.4
	68-72歳	303	3.0	10.2	21.5	65.3
	73-77歳	141	0.7	7.8	22.0	69.5
女性	全体(NFRJ98)	3540	5.7	14.2	24.0	56.0
	全体(NFRJ03)	3278	4.4	13.3	21.4	60.8
	28-32歳	326	6.4	12.9	20.2	60.4
	33-37歳	353	4.8	13.9	20.1	61.2
	38-42歳	384	3.6	16.9	24.0	55.5
	43-47歳	332	4.5	15.7	28.9	50.9
	48-52歳	360	4.2	14.2	24.2	57.5
	53-57歳	402	4.5	12.4	21.6	61.4
	58-62歳	393	5.1	10.9	18.3	65.6
	63-67歳	296	4.7	13.9	19.3	62.2
	68-72歳	255	1.6	11.8	18.4	68.2
	73-77歳	177	3.4	7.9	15.8	72.9

性別 p<.001 男性・年齢層別 p<.01 女性・年齢層別 p<.01

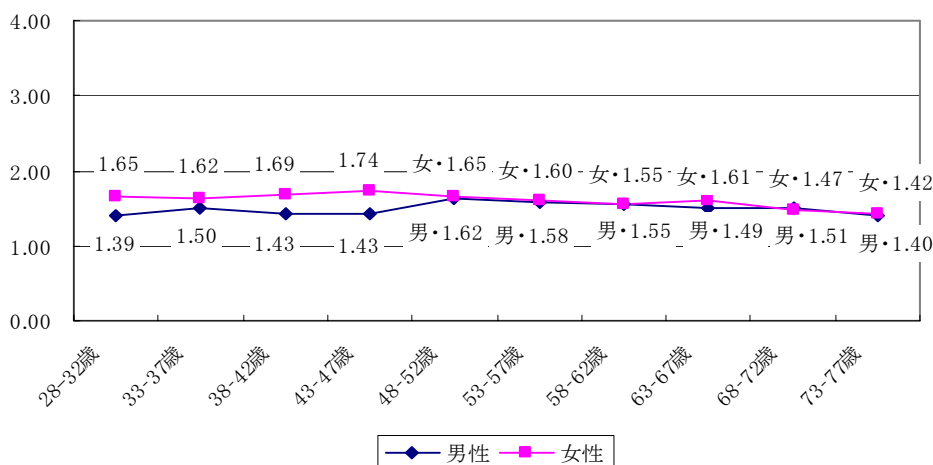


図 9-4 性別・年齢別の「『自分が家族に理解されていない』と感じたこと」の平均値

表 9-5 は「家事・育児・介護などでの負担が大きすぎると感じたこと」についての結果である。各年齢層を通して「まったくなかった」という回答が男性では 7～8 割、女性では 5～6 割を占めている。NFRJ98 ではよく似た内容を指す質問項目として、「家族内での自分の負担が大きすぎると感じたこと」がある。この質問項目と比較すると、女性では NFRJ03 のほうが「まったくなかった」という回答の割合が 12 ポイント大きく、回答が「まったくなかった」により集中している。

NFRJ03 では、すべての年齢層を通して性別による違いが顕著である。男性では「まったくなかった」という回答が 7～8 割に達するのに対して、女性では「まったくなかった」という回答は 5～6 割にとどまる。性別による差は図 9-5 でも確認することができる。また図 9-5 からは、こうした性別による差異は特に 30 歳台から 40 歳代の若年層において明瞭であることがわかる。年齢層別の差は男性・女性ともに有意であるが、その傾向は性別によって異なっている。男性では 30 歳台から 40 歳台の若年層において負担が大きすぎると感じた頻度が低く、中高年層において頻度が高くなる傾向が見られる。他方女性では、若年層において負担が大きすぎると感じた頻度が高く、年齢層が上がるにつれて頻度が低くなる傾向がみられる。

表 9-6 および図 9-6 は「家計の先行きについて不安を感じたこと」について示している。

NFRJ98 では家計の先行きについての不安感をたずねる質問項目はなかったため、ここでは NFRJ98 との比較は行なわない。

表 9-6 によると NFRJ03 では、性別による差が有意である。男性よりも女性の方が、不安を感じた頻度が高い。また図 9-6 より性別による差は「28-32 歳」から「43-47 歳」の若年層において顕著であることがわかる。年齢層による差も男性・女性ともに有意である。男性は「48-52 歳」層から「63-67 歳」層にかけて不安を感じた頻度が高い傾向がみられる。女性は 30 歳台から 40 歳台にかけての若年層に不安を感じた頻度が高く、年齢層が高くなるにつれて不安を感じた頻度が低くなる傾向がみられる。こうした傾向は図 9-6 においても確認することができる。

表 9-5 (オ) 家事・育児・介護などでの負担が大きすぎると感じたこと

		N	何度も あった	ときどき あった	ごくまれにあ った	まったく なかった
男性	全体(NFRJ98)	3233	4.0	9.9	20.6	65.4
	全体(NFRJ03)	2873	3.2	6.1	11.5	79.3
	28-32歳	273	2.2	2.9	6.2	88.6
	33-37歳	264	1.9	4.2	9.8	84.1
	38-42歳	282	1.8	5.7	12.4	80.1
	43-47歳	272	0.7	4.8	14.7	79.8
	48-52歳	310	4.2	5.8	15.8	74.2
	53-57歳	380	4.2	6.8	13.2	75.8
	58-62歳	333	3.6	8.4	9.9	78.1
	63-67歳	324	4.9	6.2	10.5	78.4
	68-72歳	297	3.7	7.1	10.1	79.1
	73-77歳	138	4.3	9.4	11.6	74.6
女性	全体(NFRJ98)	3549	12.4	18.1	26.9	42.6
	全体(NFRJ03)	3265	7.7	14.8	22.9	54.6
	28-32歳	326	8.0	13.5	23.9	54.6
	33-37歳	351	9.4	18.5	25.9	46.2
	38-42歳	384	8.9	17.4	27.6	46.1
	43-47歳	332	9.3	16.3	28.3	46.1
	48-52歳	358	7.3	15.4	25.7	51.7
	53-57歳	400	8.3	13.8	23.3	54.8
	58-62歳	393	5.6	13.5	18.8	62.1
	63-67歳	292	7.9	12.7	16.4	63.0
	68-72歳	253	6.7	12.6	18.2	62.5
	73-77歳	176	4.0	11.9	14.2	69.9

性別 p<.001 男性・年齢層別 p<.01 女性・年齢層別 p<.001

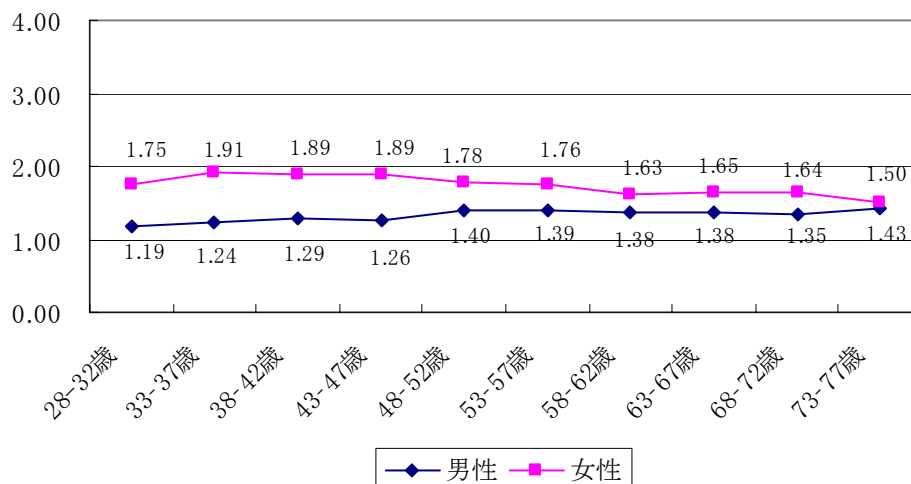


図 9-5 性別・年齢別の「家事・育児・介護などでの負担が大きすぎると感じたこと」の平均値

表 9-6 (カ) 家計の先行きについて不安を感じたこと

		N	何度も あった	ときどき あった	ごくまれに あった	まったく なかった
男性	全体	2904	12.3	18.3	29.7	39.7
	28-32 歳	275	12.0	13.1	26.9	48.0
	33-37 歳	264	11.0	15.9	30.7	42.4
	38-42 歳	284	13.0	16.2	27.8	43.0
	43-47 歳	273	12.8	18.3	26.7	42.1
	48-52 歳	311	12.9	23.2	31.8	32.2
	53-57 歳	383	15.1	19.1	32.4	33.4
	58-62 歳	338	13.3	21.3	30.2	35.2
	63-67 歳	335	12.8	17.6	35.8	33.7
	68-72 歳	301	8.0	19.3	27.2	45.5
	73-77 歳	140	10.0	16.4	20.0	53.6
女性	全体	3284	18.3	20.1	27.0	34.6
	28-32 歳	325	20.6	17.8	25.5	36.0
	33-37 歳	352	20.7	21.9	29.3	28.1
	38-42 歳	383	21.9	19.6	31.1	27.4
	43-47 歳	332	21.7	22.9	30.7	24.7
	48-52 歳	359	19.8	23.1	24.0	33.1
	53-57 歳	403	19.1	18.9	32.3	29.8
	58-62 歳	393	16.8	20.6	26.2	36.4
	63-67 歳	295	15.6	20.0	26.1	38.3
	68-72 歳	263	12.5	14.8	20.5	52.1
	73-77 歳	179	6.7	19.6	17.3	56.4

性別 p<.001 男性・年齢層別 p<.001 女性・年齢層別 p<.001

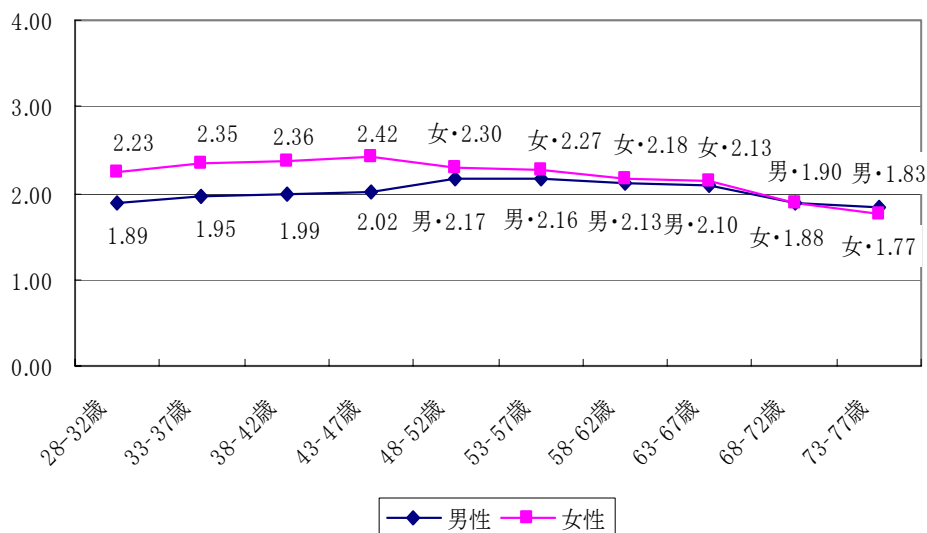


図 9-6 性別・年齢別の「家計の先行きについて不安を感じたこと」の平均値

9-3 仕事に関する悩み

仕事に関する悩みをたずねる項目は、「職場での仕事の負担が大きすぎると感じたこと」、「職場や仕事上で『自分が理解されていない』と感じたこと」の2項目である。表 9-7、9-8 にそれぞれについての性別および5歳幅の年齢層別の割合を示す。表中のNは、無回答および非該当を除いた数値である。また図 9-7、9-8 には、性別および年齢層別の平均値をプロットしたものを示す。

表 9-7 には「職場での仕事の負担が大きすぎると感じたこと」についての性別および年齢層別の割合を示している。男女の年齢計のパーセンテージについては、NFRJ98 の数値も示す。NFRJ98 と NFRJ03 の年齢計のパーセンテージをみると、両者には男女とも大きな差異はみられない。

NFRJ03 では性別による差は有意ではない。年齢層別の差は男性については有意であるが、女性については有意ではない。男性では、「28-32歳」層から「58-62歳」層にかけて負担が大きすぎると感じた頻度が高く、それ以降の年齢層では負担を感じた頻度が低い傾向がみられる。これらの傾向は、図 9-7 においても確認することができる。

表 9-7 (キ) 職場での仕事の負担が大きすぎると感じたこと

		N	何度も あった	ときどき あった	ごくまれにあ った	まったく なかった
男性	全体(NFRJ98)	2614	11.4	19.0	29.0	40.5
	全体(NFRJ03)	2254	10.5	17.3	27.2	44.9
	28-32歳	259	13.5	14.7	27.8	44.0
	33-37歳	256	18.8	18.8	24.2	38.3
	38-42歳	276	11.2	21.4	23.6	43.8
	43-47歳	266	9.8	18.8	32.0	39.5
	48-52歳	293	11.3	18.1	33.1	37.5
	53-57歳	355	7.9	18.9	29.6	43.7
	58-62歳	264	9.8	15.2	25.8	49.2
	63-67歳	177	5.6	13.0	20.9	60.5
	68-72歳	84	0.0	10.7	19.0	70.2
	73-77歳	24	0.0	16.7	29.2	54.2
女性	全体(NFRJ98)	1894	9.9	19.7	28.1	42.2
	全体(NFRJ03)	1663	9.5	18.2	26.1	46.2
	28-32歳	181	9.4	16.6	33.7	40.3
	33-37歳	178	10.1	19.1	26.4	44.4
	38-42歳	244	12.7	17.2	24.6	45.5
	43-47歳	251	10.0	18.7	28.3	43.0
	48-52歳	249	6.8	17.7	23.7	51.8
	53-57歳	258	9.3	19.0	27.1	44.6
	58-62歳	170	8.2	20.6	22.9	48.2
	63-67歳	74	10.8	17.6	21.6	50.0
	68-72歳	46	8.7	13.0	17.4	60.9
	73-77歳	12	0.0	16.7	25.0	58.3

性別 n.s. 男性・年齢層別 p<.001 女性・年齢層別 n.s.

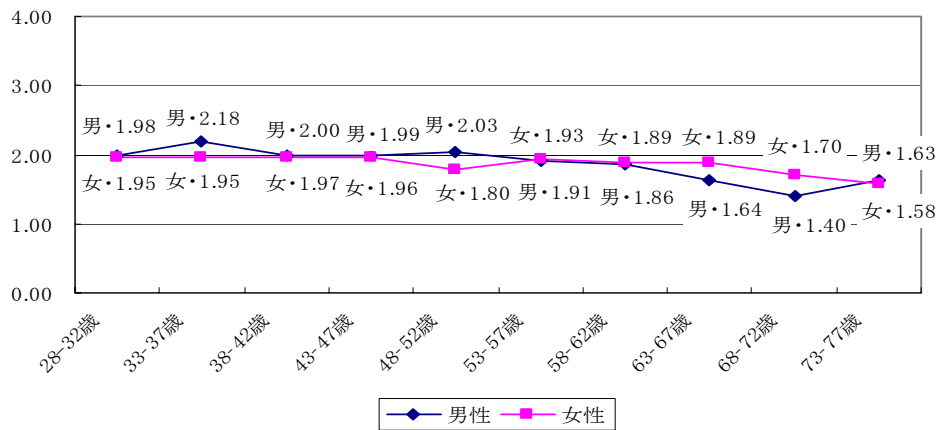


図 9-7 性別・年齢別の「職場での仕事の負担が大きすぎると感じたこと」の平均値

表 9-8 および図 9-8 では「職場や仕事上で『自分が理解されていない』と感じたこと」についての、性別・年齢層別割合と性別および年齢層ごとの平均値を示している。NFRJ98 と NFRJ03 の年齢計のパーセンテージをみると両者にそれほどの差異はみられないが、NFRJ03 のほうが回答が若干「まったくなかった」に集中している。

表 9-8 (ク) 職場や仕事上で「自分が理解されていない」と感じたこと

		N	何度もあった	ときどきあった	ごくまれにあった	まったくなかった
男性	全体(NFRJ98)	2624	6.4	15.5	31.7	46.4
	全体(NFRJ03)	2249	5.6	13.1	27.5	53.8
	28-32歳	260	6.9	10.8	28.8	53.5
	33-37歳	256	9.0	14.5	24.6	52.0
	38-42歳	276	5.1	15.6	31.5	47.8
	43-47歳	265	6.0	11.7	30.6	51.7
	48-52歳	292	6.8	17.1	27.4	48.6
	53-57歳	355	5.1	13.5	33.0	48.5
	58-62歳	262	3.4	13.0	23.3	60.3
	63-67歳	177	3.4	7.9	19.2	69.5
	68-72歳	81	2.5	7.4	19.8	70.4
	73-77歳	25	4.0	12.0	16.0	68.0
女性	全体(NFRJ98)	1898	5.0	14.4	30.1	50.6
	全体(NFRJ03)	1662	5.3	11.7	25.2	57.8
	28-32歳	181	6.6	11.6	26.0	55.8
	33-37歳	178	2.8	15.2	28.1	53.9
	38-42歳	244	9.8	11.5	22.1	56.6
	43-47歳	251	4.8	13.5	26.7	55.0
	48-52歳	249	3.6	8.4	28.5	59.4
	53-57歳	258	5.0	12.8	26.4	55.8
	58-62歳	171	1.8	11.7	21.1	65.5
	63-67歳	72	9.7	6.9	22.2	61.1
	68-72歳	46	6.5	8.7	13.0	71.7
	73-77歳	12	0.0	16.7	25.0	58.3

性別 p<.05 男性・年齢層別 p<.001 女性・年齢層別 n.s.

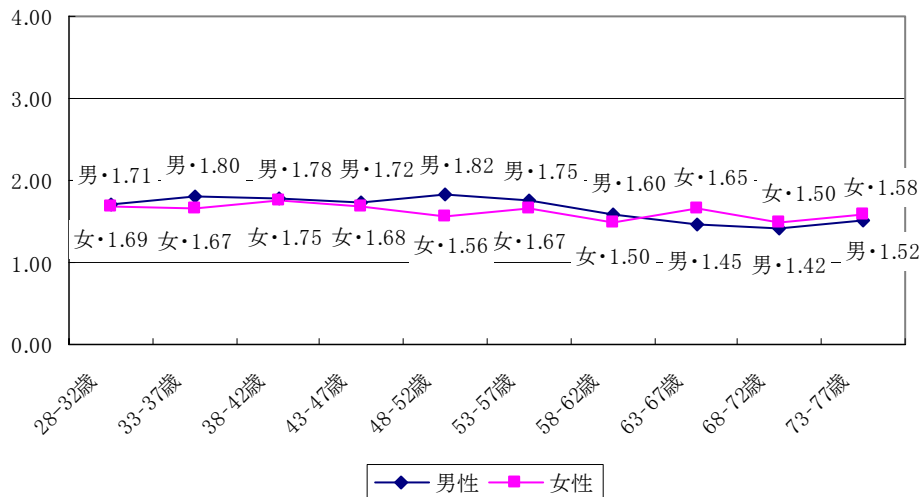


図 9-8 性別・年齢別の「職場や仕事上で『自分が理解されていない』と感じたこと」の平均値

NFRJ03 では性別による差が 5 %水準で有意である。全体としては男性のほうが、理解されていないと感じた頻度が高い。ただし家族に関する悩みと比べると、性別による差はそれほど明瞭ではない。図 9-8 においても性別による差はそれほどはっきりと識別されるわけではない。男性は年齢層による差がみられる。男性は「28 - 32 歳」層から「53 - 57 歳」層までは理解されていないと感じた頻度が比較的高く、それ以降の年齢層では低くなっている。女性は年齢層ごとの差は有意ではない。

9-4 仕事と家族の葛藤

仕事と家族の葛藤は、「仕事のために家族との時間がとれないと感じたこと」、「家族のために仕事の時間がとれないと感じたこと」の 2 項目で測定されている。表 9-9、9-10 にそれぞれについての性別および 5 歳幅の年齢層別の割合を示す。表中の N は、無回答および非該当を除いた数値である。また図 9-9、9-10 には、性別および年齢層別の平均値をプロットしたものを示す。なお NFRJ98 では仕事と家族の葛藤についてたずねる質問項目がなかったため、ここでは NFRJ98 との比較は行なわない。

表 9-9 は「仕事のために家族との時間がとれないと感じたこと」の性別・年齢別の割合を示す。表 9-9 によると性別による差が有意である。女性より男性の方が仕事のために家族との時間がとれないと感じた頻度が高い。図 9-9 よりこうした傾向は、30 歳台から 40 歳台において顕著であることがわかる。年齢層による差は男性・女性ともに有意である。男性については「33 - 37 歳」層および「38 - 42 歳」層において高く、以後年齢が高くなるにつれて仕事のために家族との時間がとれないと感じた頻度が低くなる傾向がみられる。女性では「28 - 32 歳」層から「43 - 47 歳」層にかけて高く、それ以降の年齢層では仕事のために家族との時間がとれないと感じた頻度は低い。

表 9-9 (ケ) 仕事のために家族との時間がとれないと感じたこと

		N	何度もあった	ときどきあった	ごくまれにあった	まったくなかった
男性	全体	2248	11.1	15.1	23.5	50.2
	28-32歳	259	14.7	15.8	20.8	48.6
	33-37歳	256	23.8	11.3	24.2	40.6
	38-42歳	276	17.0	17.8	27.9	37.3
	43-47歳	264	9.1	23.9	24.2	42.8
	48-52歳	292	9.9	16.1	24.3	49.7
	53-57歳	356	7.0	14.0	25.0	53.9
	58-62歳	262	6.1	13.7	17.9	62.2
	63-67歳	175	4.6	8.6	26.3	60.6
	68-72歳	84	2.4	7.1	17.9	72.6
	73-77歳	24	0.0	16.7	16.7	66.7
女性	全体	1663	8.4	14.9	20.3	56.4
	28-32歳	181	11.6	15.5	14.4	58.6
	33-37歳	178	9.6	21.3	20.2	48.9
	38-42歳	244	11.9	16.8	25.4	45.9
	43-47歳	251	8.0	15.9	26.7	49.4
	48-52歳	249	6.8	10.4	18.5	64.3
	53-57歳	257	4.7	15.6	19.5	60.3
	58-62歳	171	7.0	9.4	20.5	63.2
	63-67歳	74	12.2	12.2	13.5	62.2
	68-72歳	45	6.7	15.6	4.4	73.3
	73-77歳	13	0.0	15.4	30.8	53.8

性別 p<.001 男性・年齢層別 p<.001 女性・年齢層別 p<.001

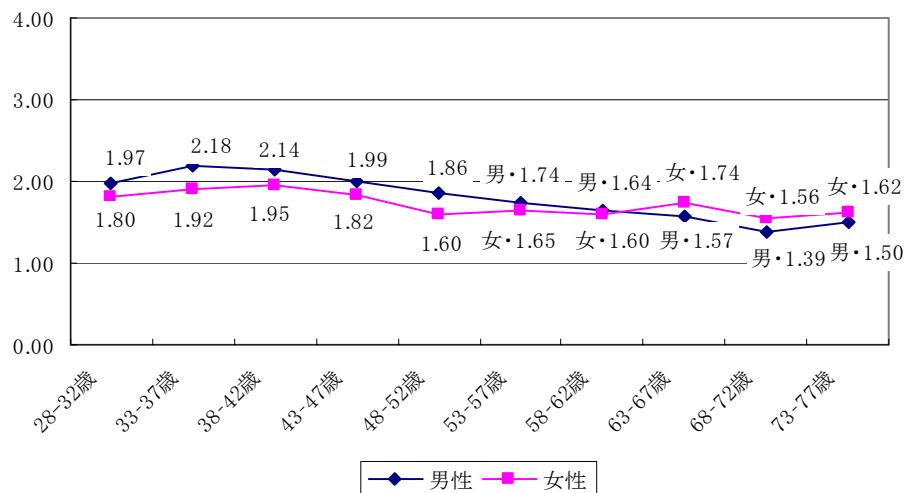


図 9-9 性別・年齢別の「仕事のために家族との時間がとれないと感じたこと」の平均値

表 9-10 では「家族のために仕事の時間がとれないと感じたこと」の性別・年齢別の割合を示している。先の表 9-9 に比べると「何度もあった」という回答の割合が少なく、「まったくなかった」という回答の割合が高いことがわかる。「まったくなかった」という回答が、男性・女性ともすべての年齢層において7～8割を占めている。つまり仕事のために家族との時間がとれないと感じた頻度は、家族のために仕事の時間がとれないと感じた頻

度より高い。

性別による差は5%水準で有意である。しかし図9-10に示されるように、女性のほうが若干、家族のために仕事の時間がとれないと感じた頻度が高いものの、男性と女性の差はそれほど明瞭ではない。また年齢層ごとの差は男性・女性とも有意ではない。

表9-10 (コ) 家族のために仕事の時間がとれないと感じたこと

	N	何度もあった	ときどきあった	ごくまれにあった	まったくなかった
男性 全体	2249	2.5	5.3	12.5	79.7
28-32歳	259	1.5	3.1	8.1	87.3
33-37歳	256	2.7	5.1	14.1	78.1
38-42歳	276	2.5	4.7	15.9	76.8
43-47歳	265	2.6	6.4	14.0	77.0
48-52歳	292	1.0	4.5	14.7	79.8
53-57歳	356	2.8	6.2	12.4	78.7
58-62歳	263	3.4	8.0	8.7	79.8
63-67歳	174	4.0	4.0	10.3	81.6
68-72歳	84	2.4	4.8	13.1	79.8
73-77歳	24	0.0	8.3	16.7	75.0
女性 全体	1664	2.8	6.4	14.1	76.6
28-32歳	181	4.4	4.4	8.3	82.9
33-37歳	178	2.2	5.6	15.2	77.0
38-42歳	243	2.5	9.5	18.9	69.1
43-47歳	251	2.0	6.8	16.7	74.5
48-52歳	250	2.4	4.4	12.4	80.8
53-57歳	258	2.7	7.4	12.4	77.5
58-62歳	171	3.5	4.1	16.4	76.0
63-67歳	74	4.1	8.1	12.2	75.7
68-72歳	45	2.2	11.1	4.4	82.2
73-77歳	13	7.7	7.7	23.1	61.5

性別 p<.05 男性・年齢層別 n.s. 女性・年齢層別 n.s.

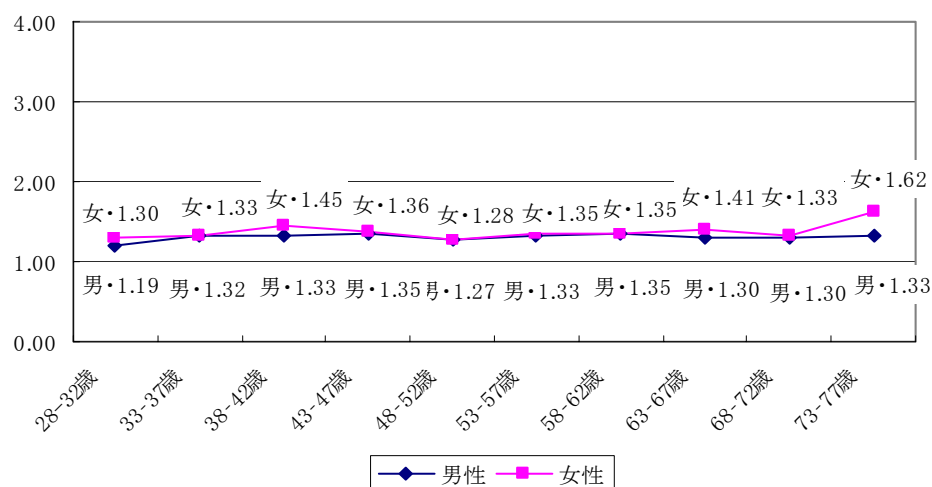


図9-10 性別・年齢別の「家族のために仕事の時間がとれないと感じたこと」の平均値

9-5 小括

ここまで、家族員に関する悩み、家族生活に関する悩み、仕事に関する悩み、仕事と家族の葛藤について、性別および年齢層別の傾向を概観してきた。析出された傾向は4点ある。すなわち、①特に若年期における女性の家族に関する悩みの頻度の高さ、②家族に関する悩みを抱えやすい年齢の性別による差異、③仕事に関する悩みに性別による差がみられないこと、④仕事と家族の境界の非対称性、である。以下に若干の説明を加えておきたい。

析出された傾向のうち最も一貫してみられたのは、女性の家族に関する悩みの頻度の高さである。家族員に関する悩み・家族生活に関する悩みのすべての項目について、男性よりも女性の悩みの頻度が高かった。こうした性別による差は、特に40歳台までの若年層において顕著であった。「子どものことで悩んだこと」、「『家族に理解されていない』と感じたこと」、「家事・育児・介護などでの負担が大きすぎると感じたこと」、「家計の先行きについて不安を感じたこと」などの項目で、男性と女性の差は40歳台までの年齢層においてははっきりとみられた。

次に挙げられるのは、男性と女性で悩みをかかえやすい年齢層が異なることである。男性では40・50歳台を中心とした中高年期、女性では30歳台を中心とした若年期に、家族生活において悩みをかかえやすい。これらの傾向は「子どものことで悩んだこと」、「『家族に理解されていない』と感じたこと」、「家事・育児・介護などでの負担が大きすぎると感じたこと」、「家計の先行きについて不安を感じたこと」などの項目で確認された。

こうした分析結果は、家族生活および職業生活において期待されている役割が性別によって異なっている点を反映しているとみられる。つまり男性は職業生活において仕事に対するコミットメントが求められ、かつ家族の側からも家計を支える役割を期待されるような中高年期において、家族生活における問題が発生しやすい。男性においてこの時期は、職業生活についての悩みの頻度も高い。つまり男性においては40・50歳台を中心とした中高年期が、家族生活と職業生活に問題が生じやすい時期である。他方女性には、育児／子育て役割が強く期待されているために、おそらくは子育て中の女性が多いと思われる若年期に、家族に関する問題が発生しやすいのであろう。仕事と家族生活との間の葛藤も、女性には若年期に生じやすい。

このように家族生活に関する悩みについては、性別および年齢層別の差異がみられた。それは先述のように、女性と男性、またその年齢によって家族生活において期待される役割が異なっていることを反映していると思われる。他方で職業生活に関する悩みは家族生活についての悩みと比較すると、性別による差はそれほどはっきりとはみられなかった。仕事をもつ人にかぎってみれば、性別による職業生活における心理的負荷に差異はみられない。

仕事と家族の葛藤について、仕事のために家族との時間がとれないと感じた頻度は、家族のために仕事の時間がとれないと感じた頻度よりも高かった。つまり仕事と家族の境界は相互に浸透的であるが、家族の境界は仕事の境界に比べて、よりもろいものである点も分析からは確認された。